

## 2009 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 2 月 15 日作成)

|                              |   |  |
|------------------------------|---|--|
| 小委員会名                        | バイオクライマティックデザイン小委員会   | 主 査 名：須永 修通<br>就任年月：2009 年 04 月  |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 環境工学本委員会 (熱環境運営委員会)   | 委員長名：久野 覚<br>主 査 名：猪岡 達夫   |
| 設 置 期 間                      | 2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月   |  |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <p>本小委員会では、持続可能な建築・都市の実現をめざして、さまざまなパッシブ要素技術に関するデータベース化、住まい手の環境調整行動を考慮した建築環境システムの評価手法の構築を行ないつつ、地域気候に適した自然環境ポテンシャルの有効な活用策について検討する。</p> <p><b>2009 年度</b>：バイオクライマティックデザイン (以下、BCD) に関するハード面の事例データを整備し、事例集出版のためのワーキングを設置。</p> <p><b>2010 年度</b>：BCD とヒトの環境調整行動 (ソフト面) と関連の検討、事例集出版。</p> <p><b>2011 年度</b>：BCD に関するシンポジウム・WS 開催。</p> <p><b>2012 年度</b>：設計者や住まい手を対象とした環境教育、住まい手のハード面への影響の検討。WS などの開催。</p> |  |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))           | 委員公募の有無：無し  |  |
|                              | 主査：須永 修通 (首都大東京)<br>幹事：宇野 朋子 (電力中央研究所)、斉藤 雅也 (札幌市立大)<br>委員：金子 尚志 (エステック計画研究所)、北瀬 基哉 (環デザイン舎)、小玉 祐一郎 (神戸芸術工科大)、宿谷 昌則 (東京都市大)、菅原 正則 (宮城教育大)、鈴木康司 (OM 研究所)、鈴木 信恵 (東京都市大)、高間 三郎 (科学応用冷暖研究所)、廣谷 順子 (オーガニックテーブル)、長谷川 兼一 (秋田県立大)、深澤 たまき (神奈川大)、細井 昭憲 (熊本県立大)   |  |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           | <b>バイオクライマティックデザインブック出版準備 WG</b><br>小委員会にて収集された、日本国内における建築事例や、自然環境ポテンシャルを利用した建築技術・設計事例を中心に、BCD 建築の環境設計を行なう上での要点をまとめた刊行本の作成準備を行なう。事例紹介のみならず、採用された各種設計手法の効果の評価結果も掲載する準備を行なう。  |  |
| 2009 年度予算                    | 170,000 円   | ホームページ公開の有無：有り<br>委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv. aij. or. jp/kankyo/s14/">http://news-sv. aij. or. jp/kankyo/s14/</a> |

| 項 目                           | 自 己 評 価                      |
|-------------------------------|------------------------------|
| 委員会開催数                        | 8 回 (年度内計画を含む、うち WG 開催数 5 回) |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は<br>除く)     |                              |
| 講習会                           |                              |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等) |                              |
| 大会研究集会                        |                              |

|   |   |
|---|---|
| 対外的意見表明・パブリックコメント等  |   |
| <p style="text-align: center;"><b>目標の達成度</b><br/>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> | <p>1. 2008年度は、自然のポテンシャルを活かした建築に関する研究・設計事例を紹介する事例集を製作するために、「バイオクライマティックデザインブック作成準備WG（以下、BCD出版準備WG、主査：長谷川兼一（秋田県立大学）を設置し、2009年度も活動を継続した。</p> <p>2. 傘下のBCD出版準備WGでは、出版本コンセプトの確立、構成の検討を行ない、いくつかの事例について現地調査やヒアリングを行なった。出版社の編集者を交えて、具体的な出版本の構成（目次案）・執筆内容はほぼ固まった。2010年度は、BCD出版準備WGを企画刊行運営委員会・バイオクライマティックデザインブック刊行小委員会と改め、2010年度中の出版を目指すこととした。</p> <p>3. これまでに小委員会を3回、WGを4回開催した（3月末に小委員会を1回開催予定）。小委員会でBCDの設計・研究事例を収集した。また、小委員会とWGのメーリングリストを通して、BCD建築の事例、調査事例の収集、過去の出版物のリストアップを実施した。</p> |
| <p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>  | <p>1. BCD出版準備WGの開催を優先したために、小委員会自体の開催数が2008年度に比べて減少した。次年度以降は、本小委員会と出版に関わる企画刊行運営委員会傘下のBCD刊行小委員会の2本立てで活動を継続していく予定である。</p> <p>2. 小委員会専用ウェブサイトの更新頻度が少なく、委員会活動の発信が遅れる傾向にある。ウェブサイトの活用事例について、掲載管理責任を担保しながら、更新頻度の増進を図るための具体的方法を検討する。</p>   |

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。